



30年以上も前でしようか、たまにたまつけたテレビで、「井筒三兄弟」というドキュメンタリー番組をやっており、つい夢中で見たことを覚えています。

三兄弟とは、当時の井筒部屋の親方(元関脇鶴ヶ嶺)の次子で、長男は元十両の鶴嶺山、次男は元関脇の逆鉾。そして三男が、元関脇の寺尾。血縁だからこそ甘えは許さず厳しい稽古を続けて切磋琢磨(せつさつたくま)する姿に心を打たれました。早くに母親を亡くし、その分絆が強かった史上初の三兄弟関取全員がこの世からいなくなってしまうのか…隔世の感を禁じ得ません。

「花のサンパチ組」として相撲ブームの立役者となり、鍛え抜かれた細身の肉体と甘いマスクで女性のファンも多かった寺尾関(こと鍛山(しころやま)親方が、都内の病院で12月17日に死去されました。

336 大相撲元関脇 寺尾

ブームの立役者



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

た。享年60。死因は、「うっ血性心不全」との発表です。

鍛山親方は9月23日から不整脈で入院しており、死の前日の12月16日に容体が急変したとのこと。以前より心臓に持病があり、ここ数年は、入退院を繰り返していたといえます。

心不全は、「心臓が悪いため

に、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」と定義されています。

心筋梗塞やストレスによって、急激に心臓の働きが悪くなる「急性心不全」と、心不全の状態が長い間続く「慢性心不全」に分けられます。鍛山親方の死因となったうっ血性心不全は、慢性心不全の一つです。心臓が弱って、必要量の血液を送り出すことができなくなった状態をいいます。そのため、肺などに血液が滞り、息切れや呼吸困難、倦怠(けんたい)を感じるようになります。それにしても早すぎる死です。次兄の逆

鉾関は、2019年に膝臓(すいぞう)がんで死去、享年58。その半年後、20年に長兄の鶴嶺山関が急性心不全で死去、享年60。母・節子さんは鍛山親方が高校生の時、43歳で亡くなっています。

長年、多くの人をお看取りしてきた医師として、「短命の家系」というのは確かにあると思います。しかし昨今の研究によると、寿命に対する遺伝の影響は25〜30%で、残りは食生活などの、環境によるものという見方が強いです。

この連載を続けていても感じますが、元力士は平均寿命まで生きられない人が多い。体を大きくするために、さまざまな負担を強いられるからでしょう。

しかし人間は、長生きをするために生まれてきたわけではない。たとえ健康に影響があることがわかっていても、大きな夢に向かって命を燃やすのは、豊かな人生です。

鍛山親方の座右の銘は若い頃から、「今日一日の努力」でした。小さな体で大きな力士を次々と倒した寺尾関にふさわしい言葉です。

「今日一日の努力」で命燃やす